

# 大庄中

# 図書だより



令和6年  
7月3日発行  
図書委員会  
-第2号-

## 今週は七夕ですね(\*^\_^\*)

七夕は五節句（他 1/7「<sup>じんじつ</sup>人日の節句」3/3「<sup>じょうし</sup>上巳の節句」5/5「<sup>たんご</sup>端午の節句」9/9「<sup>ちようよう</sup>重陽の節句」）の一つにも数えられ、星祭りともいいます。

日本の「たなばた」は、元来、奈良時代に中国から伝わり、元からあった日本の伝説と合わさって生まれました。日本では、“乞巧奠（きこうでん）”または“乞巧祭会（きっこうさいえ）”とも言い、7月7日の夜に織物・裁縫などの手芸上達を願う祭であり、梶の葉に詩歌を書いて、願いが叶うことを祈りました。これは、天の川を隔てた牽牛（彦星）と織女（織姫）が、年に一度この夜に出会うとの伝説によります。ちなみに、短冊に願い事を書いて笹に飾る風習は江戸時代からのものです。

また日本の七夕祭りは、新暦7月7日やその前後の時期に各地で開催されていますが、ある意味、壮大なラブストーリーを感じさせるこの七夕。

図書室にも数多くの「恋愛もの」の小説や漫画もありますので、一度、探してみたいはいかがでしょうか。

（「恋愛もの」が苦手な人には、「宇宙」や「星」の写真集や「宇宙兄弟」などの漫画もあります！）



## 夏休み特別貸し出しについて

通常の2週間2冊ではなく、特別枠として倍の4冊+1の計5冊まで借りることができます。

## 特別貸し出しは、今月の17日（水）まで、返却は、8/29（木）～9/6（金）

までになります。

この夏休みの間に「読書感想文」の宿題が出ている学年もあると思います。涼しい図書室で自分のお気に入りの一冊を探してみませんか？

## 図書館司書の桐野さんからのオススメ本



くちぶえを吹くと涙が止まる。  
大好きな番長はそう教えてくれたんだ――。懐かしい子ども時代が蘇る、さわやかでほろ苦い友情物語。



お金持ちのエヌ氏は、博士が自慢するロボットを買い入れた。オールマイティだが、時々あばれたり逃げたりする。ひどいロボットを買わされたエヌ氏は、博士に文句を言ったが…。

# ◎新刊書◎ 課題図書入荷しました！

書名	著者
ノクツドウライオウ 靴ノ往来堂	佐藤 まどか
希望のひとしずく	キース・カラブレーゼ
アフリカで、バッグの会社はじめました	江口絵理

## 今月のピックアップ♪



### ☆ノクツドウライオウ 靴ノ往来堂

あなたの人生を変える魔法の靴店！  
 高いビルの中にちょこんとはさまっている小さな建物。くすんだ色のレンガ造りのこの店は、築100年のオーダーメイド靴店「往来堂」だ。店主は、靴職人の祖父。孫の夏希は、シューズデザイナーを夢見る中学生で祖父を尊敬していた。ある日、店の後を継ぐはずの兄が突然いなくなり、店は危機的状況となった。夏希は後を継ぐべきか悩める日々を過ごす。そんな中、この店の土地を買い取りたいという土地開発会社の人が来た。祖父は、その内の1人の靴をみて足に合っていない靴を履いていると指摘する。その人は、どんな靴も合わないのであきらめていると話した。祖父が助言すると、その人は靴を注文することになった。でき上がった靴を渡してまもなく、その人が来店して言った。「まさか自分の人生が、たった一足の靴で変わるとは思いませんでした……」これらのいきさつを見ていた夏希は、自分の向かう道をさだめていく。シューズデザイナーを夢見る中学生をさわやかに描いた青春ドラマ！



### ☆希望のひとしずく

オハイオ州の小さな町には、願いを叶えてくれるという井戸がある。中学一年生のライアンは、裕福な家の一人っ子アーネスト、幼なじみのリジーとともに、この井戸を見つける。そして、クラスメイトや町の人たちのさまざまな願いごとを知る。アーネストの亡くなったおじいちゃんが屋根裏部屋に保存していたものたちが、不思議な縁でいろんな人の手にわたり、奇跡的にその願いがかなっていく。いろんな悩みをかかえる人々が、ちょっとしたやさしさで救われていく、希望と愛でいっぱいのものがたり。



### ☆アフリカで、バッグの会社はじめました

目の覚めるような原色に、花や動物、サークル模様がデザインされていて、持つだけで心が華やいでくる——人気のバッグ・ブランド「リッチーエブリデイ」を立ち上げた仲本千津さんは、いま注目の「社会起業家」。千津さんは、子どものころから「人の命を救う仕事をしたい」と思っていました。最初は医師になりたいという夢をもっていました。それをあきらめることになり、つぎに国連職員を目指します。大学に入り、今度は研究者への道を進みましたが、銀行員として社会人生活をスタートすることになりました。それでも、自分の夢をかなえる仕事を探しつづけた千津さんは、転職先の仕事でアフリカ・ウガンダのシングルマザーたちに出会います。「彼女たちの力になれるビジネスはないだろうか」。そして千津さんは、アフリカプリントを使ったバッグをつくる会社を立ち上げました——。バッグづくりを通して、アフリカの貧困問題を解決し、女性を勇気づけ、輝かせたい——迷い、遠回りしながら、自分の信じる道を歩んできた仲本千津さんの姿を描く“進路決定”ドキュメンタリー。